

原子力災害時の放射性物質摂取状況の解釈に必要なとなる 個人行動情報および放射性物質情報の検討

飯本研 D3 五十嵐 悠

本研究の目的

将来原子力災害が発生した場合に備え

- ◆ 原子力災害における放射性物質摂取状況の解釈
- ◆ 摂取状況の解釈に必要なとなる個人行動情報と放射性物質情報の提示

本研究の概要

福島第一原発事故における

- ✓ 住民の行動情報 + 放射性物質体内残留量測定データ解析
- ✓ 住民の行動情報 + 大気中放射性物質濃度推定データ解析



実際の災害で
必要となる情報と
課題の提示

他の原子力災害にも共通する基盤的視点

- ✓ 解釈の限界に関する検討  一般論として必要な情報と取得時の考慮点の提示

2020年度の成果

個人行動に基づく新たな複数の摂取状況の可能性を明らかに

福島第一原発事故に関する先行研究での仮定摂取状況
2011年3月12日 急性・吸入摂取

個人行動情報＋福島第一原発事故における事象の解析
一部仮定した条件下でも、新たな摂取状況が複数想定
推定摂取量：先行研究と比較し0.19~1倍で幅を持つ

実際の摂取状況は個人で異なる
摂取日を明らかにすることが重要

個人行動情報に基づいた
摂取状況の解釈が求められる